

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

THE 39TH SUBSCRIPTION CONCERT

BERLIOZ

DUKAS

FRANCK



関西シティフィルハーモニー交響楽団
第39回定期演奏会

2005年3月21日[祝・月]14:30

ザ・シンフォニーホール

主催 関西シティフィルハーモニー交響楽団

協賛 株式会社 ASK PLANNING CENTER, INC.



2004年9月26日、ザ・シンフォニーホール 第38回定期演奏会

関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体 / 大阪文化団体連合会会員団体

1974年各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会をはじめファミリーコンサート等を、意欲的に開催しています。近年は指導体制の充実に力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招請して研鑽を積んで参りました。中でも、1998年より4年間、ズラタン・スルジッチ氏(現ザグレブ放送交響楽団芸術監督)を常任指揮者に招聘し、その指導を仰いだことにより「音楽的に大きな飛躍を遂げた」との評価を内外から

得ております。また組織としても「若い力」を積極的に運営面に活かし、“常に成長するオーケストラ”を目指して努力を重ねております。昨年8月に大阪市で開催された「全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会」では、開催主管団体として、当団の組織力を遺憾なく発揮し、フェスティバル成功の原動力として、連盟をはじめ全国のアマチュアオーケストラ各位から、高い評価と大きな賛辞を頂くことができました。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を行っており、現在団員数は、約100名を有します。

ごあいさつ



松田 斉

関西シティフィルハーモニー交響楽団 団長

本日は、私共の第39回定期演奏会によるご越し下さいました。

今回の定期演奏会は、フランス音楽特集として企画いたしました。

今日のメインプログラムの二短調交響曲の作曲者であるフランクは、ベルギーの出身ながらフランス国民音楽協会の会長を務め、門下よりタンディー、ショソン等の近代フランス音楽の担い手を多く輩出したことから「フランス音楽の父」と呼ばれており、今日のプログラムの締めくくりには打って付けの曲と言えます。実は、この曲の楽譜は、当団結成当初からのライブラリーとして30年間書庫の中で眠り続けていたのが、今回やっと日の目を見ることとなりました。団結成時の先輩は、『近いうちに!』との思いで調達された楽譜ではなかったかと思いますが、今日は諸先輩のそのような想いに報いられるような演奏でありたいと願っております。

ベルリオーズ 「ローマの謝肉祭」序曲

デュカス 交響詩「魔法使いの弟子」

休憩

フランク 交響曲 二短調

第1楽章 Lento-Allegro non troppo

第2楽章 Allegretto

第3楽章 Allegro non troppo

そして、本日は指揮者にクレミア出身で、現在関西フィルハーモニー管絃楽団(当団と名前が紛らわしく、間違われることがよくありますが、こちらは、関西のメジャープロオーケストラです)のコンサートマスターとして関西の音楽ファンにもお馴染みのギオルギ・ババアゼさんにご登場頂くことになりました。

ババアゼさん(通称:ゴギさん)と言えば、ヴァイオリンの名手として関西の楽壇ではよく知られていますが、指揮者としてもヨーロッパを中心に大きなキャリアを持っておられるのを知り、特にお願いで本日の舞台が実現出来ました。

今日は、ババアゼさんのケツのもと、フランス音楽の粹に触れて頂くことが出来れば嬉しく存じます。

さて、私事で恐縮でございますが、私は1977年に入団し、翌78年に運営委員、'90年に総務(運営委員長代理)、'91年運営委員長、'95年団長代行、'96年団長と、当団の歴史の大部分の運営に

携わらせて頂いて参りましたが、団長在任十年(代行を含めて)の節目を迎えたのを機に、本年5月を以って団長を退任させて頂こうと思っております。

私のような至らぬ者に惜しみなくご協力を頂き、団長の任を全うさせて頂きました団員並びに諸先輩の方々に、この紙面をお借りして深く深く感謝申し上げますとともに、種々ご教示ご指導を下さいました諸先生方や、温かいご理解を賜りました聴衆の皆様方をはじめ関係各位に衷心より御礼を申し上げます。

今後は、トロンボーン奏者として少しでも長くオーケストラに留まれるよう入団の初心にかえり精進して参りたいと思っておりますので、温かくお見守り下さいますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、新年度からは、新役員によりこれまで以上に充実した運営がなされるものと確信しております。旧倍のご理解と、温かいご声援をお願い申し上げます。

ベルリオーズ 「ローマの謝肉祭」序曲

エクトール・ベルリオーズは、1803年フランス東南部の小都市の医師の家庭に生まれ、医学の勉強のためパリに出て、そこで触れた音楽に大きな感動と刺激を覚え、やがて医学への道を棄て作曲家として歩み出すことになるのである。

しかし、保守的な伝統の強いパリの音楽界は、伝統の手法にとらわれず当時としては破天荒とも思える大規模な音楽を作る天才青年を決して温かく迎え入れようとはしなかった。

1830年に発表した『幻想交響曲』の成功にも拘らず、彼の名声はフランスよりもむしろイギリスやドイツで高く評価されていたようである。

名作曲家と言われる人達の多くが、ピアノや弦楽器の名手であるのに比べ、彼は楽器の演奏には全くの素人であった(終生ピアノを弾くことも出来なかった)ために、かえって固定概念を打破して、新しい発想で独自の管弦楽法を編み出していったのではないと思われる(私見ではあるが、この点後世のリムスキー・コルサコフと一脈通ずるものがあるように思えてならない)。また彼の作品中、ヴィオラを独奏楽器にした交響曲『イタリアの八ホルド』(op.16)以外に協奏曲の作品が全く作られていないのも、彼自身楽器の名手でなかったことと無関係ではないように思われる。

さて、今日お聴き頂く『ローマの謝肉祭』序曲であるが、序曲とは言っても同名のオペラ等は存在しない。この曲が作曲され

た1843年(初演は翌年)より5年前に、彼はオペラ『ベンヴェヌート・チェリーニ』を発表したが、このオペラは大変な労作であったにも拘らず、台本の拙さなどが原因で惨めな失敗に終わった。しかし、失敗を諦めきれなかった彼は、それを改作する意図のもとに、その第2幕(ローマの謝肉祭の場面)への前奏曲として使う心算でこの曲を作り、取敢えず序曲だけを1844年に発表した。しかし、その後『ベンヴェヌート・チェリーニ』の改作は実現せず、この序曲だけが独立した管弦楽曲として名をなすことになった訳である。従って序曲の中の旋律の多くは、このオペラから得たものであるが、序奏部のあとにイングリッシュホルンが奏でる憂愁に満ちた美しい旋律は、彼が1829年にローマ賞コンクールの応募作品として作った旋律を、後にオペラの主役による愛の歌として使ったものである。

また、この曲とは直接関係のないことではあるが、この『ローマの謝肉祭』序曲の初演が行なわれた音楽会(1844年2月3日、コンセルヴァトアール・大ホール)では、もう一つの世界初演があった。それは、サクソフォンという楽器が製作者アドルフ・サクスの自らの演奏によって初めて聴衆に披露されたのである。即ち、『ローマの謝肉祭』とサクソフォンとは言わば双子児の間柄ということになる。

松田 斉(トロンボーン)

デュカス 交響詩「魔法使いの弟子」

小傑作『魔法使いの弟子』は、1897年5月18日パリのソシエテ・ナショナルのコンサートで、作曲家ポール・デュカス(1865年パリ - 1935年パリ)自身の指揮によって初演され大成功を博しました。「ゲーテのパラードによるスケルツォ」という副題があるように、ゲーテの『Der Zauberlehrling』を交響詩的に扱った曲となります。曲のストーリーを紹介致しましょう。

* * *

魔法使いの大先生は箒に家事させる魔法を心得ています。ある日、弟子が呪文の唱え方を盗み聞きし、大先生の留守中にうろ覚えのままの呪文を試してみることにします。箒は水を汲むよう命令され正確に調子よく動き出します。呪文の力で水は流れ出て風呂桶を満たし、弟子は「万歳!大成功!と大喜び。ところが、水はどんどん流れ出したままで止まりません。「止まれ!止まれ!あっ、魔法を解く呪文を覚えていなかった!」。弟子は絶望のあまり頭にきてしまい、箒に斧を投げつけ命中。箒はボンと2つに割れ一瞬止まってしまいます。ところが、箒は2本で水汲みを



始め、広間も玄関も階段に至るまで家中は水浸しになってしまします。「大変だ!助けてくれ!」恐怖のあまり弟子は金切り声で叫びます。そこへ、魔法使いの大先生が帰宅します。大先生が一喝して魔法を解くや否や、不思議に水はぴたりと止まり静かにひいていきます。

* * *

曲はいきいきとストーリーを描いています。ヴィオラとチェロの神秘的なムードで始まり、弱音器をつけたヴァイオリンの主題は

弟子を暗示します。きびきびした木管のメロディーが魔法使いの呪文を再現して聞かせます。やがてファゴットが幕の水汲みのテーマを演奏し、様々な楽器によりテーマは迫力を増して水がどんどん流れ出ていきます。弟子は叫び、金管のファンファーレと共に大先生のご帰宅。魔法を解く瞬間、水は静かにひいていき、曲は冒頭の神秘的感をただよわせ...、物語の幕が閉じられます。

どうぞ、皆様、情景を思い浮かべながら曲をお楽しみ下さい。

山本真弓(ヴァイオリン)

フランク 交響曲 二短調

セザール・フランク(1822-1890)はパリでその生涯の大半を過ごしましたが、生まれたのはベルギーで、父親はドイツ語圏のベルギー人、母親はドイツ人でした。20歳代の初めからパリで教会のオルガニストを勤めたフランクは、バッハとベートーヴェンを敬愛し、宗教的な雰囲気の中で日々を過ごしました。派手な活動や作風を好まず、作曲家として認められたのは50歳を過ぎてからで、その作品はフランス風と言うより構成のしっかりしたドイツ的なものを残しました。なお門弟からは、ダンディ、ショーン、デュバルク、ピエルネなど多くの作曲家が巣立っています。

この曲の初演は作曲家67歳の時に行われましたが、聴衆と批評家の反応は散々なものでした。曲の冒頭の大膽な転調をはじめフランクの様々な試みが批判の対象となり、「成熟した楽想と稚拙というに近い程の作曲技術の同居」とまで言われました。また、オーケストラの響きがオルガン的で、展開部はまるでオルガンの即興演奏など、フランクが一介のオルガニストにすぎないことを持ち出す者もいました。その他にも「交響曲なのに3楽章しかないこと、第2楽章で使われているイングリッシュ・ホルンは交響曲にふさわしくない(フランスを代表する作曲家ベルリオーズは幻想交響曲(1830年)に使っているのになぜ?)」等々、こじつけとも言える批判もあり、フランクの成功を好ましく思わない人々の存在が感じられなくもありません。しかし、気楽で優雅、その上ドラマティックな音楽を求めるパリの聴衆にとって、音楽そのものの本質的な美しさや革新的な音楽技法に直面するこ

とは性に合わなかったのも事実でしょう。

ところで当のフランクは初演後帰宅して妻に「思ったとおりの響きだった」と満足していたと伝えられています。かのリストをして「バッハに匹敵する」と言わしめたすぐれたオルガン弾きであっただけに、上記の批判の可否はともかくとしてこの曲がオルガン的であるのは確かなことでしょう。初演時の悪評にも拘わらず現在ではフランスを代表する交響曲として、演奏会の主要レパートリーのひとつに数えられています。また、フランクはこの曲の初演後、1年半ばかりの後に交通事故がもとで他界し、フランクの最後の力作となりました。

第一楽章：Lento Allegro non troppo 曲の冒頭に奏される荘重な動機はこの楽章全体を支配します。この動機は「こうでなければならないか?」と自筆で譜面に書き込みがされていることで知られているベートーヴェンの最後の弦楽四重奏曲との類似を指摘する人もいます。

第二楽章：Allegretto 「漠然とはあるが、古き時代へのあこがれ」と作曲家自らが語った楽章で、イングリッシュ・ホルンがハーブを従えて哀しげに歌います。

第三楽章：Allegro non troppo これまでのテーマが回想されるというベートーヴェンが第九交響曲の終楽章で行ったことをさらに押し進め、それらを楽章の構成要素に取り入れることで全体をまとめあげています。

芝野 均(フルート)

George Babadze

conductor

ギオルギ・バブアゼ

指揮

1962年グルジア共和国トビリシ生まれ。
トビリシ国立音楽院にてシウカシュヴィリ教授に
ヴァイオリンを、オディセイ・ディトリアディー氏に
指揮を学ぶ。
モスクワにてボロディン弦楽四重奏団のベルリ
ンスキー氏に師事。
1986年より5年間バトゥーミ市交響楽団の指揮
を務める。
1990年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の
芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、
ドイツへ演奏旅行。

その他、国内外におけるオーケストラのヴァイオリン奏者としてイ
タリア諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーと
しても活躍。

1996年より大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスター、
2001年10月より関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマ
スターに就任。

2002年4月より京都市立芸術大学ヴァイオリン専攻非常勤講師
も務める。

トビリシ弦楽四重奏団メンバー。

関西シティフィルハーモニー交響楽団友の会
会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集致しております。
会員になられますと 当団主催演奏会のご案内 特別優待価格でのご入場
友の会特別席のご用意等の特典があります。入会金、会費無料!!
お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ[松田 育 0729-58-4585]
*インターネット上で、チケットの申し込みができるよう準備中です。
詳しくはホームページをご覧ください

団員募集の
お知らせ

打楽器パート
ホルンパート

急募

練習日時 毎週土曜日、夜6:30~9:30
練習場所 北出音楽事務所(JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)
お問い合わせは事務局まで。[0729-58-4585]
なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団

VIOLIN

西田 美音子
飯田 裕美
稲谷 亜季子
岩井 哲也
上阪 美保子
岡 雅樹
岡崎 鈴代
小野寺 慶太
加藤 孝司
加藤 裕紀子
川井 裕史
河盛 晶子
神田 靖子
北村 栄祥
斎藤 良子
佐川 眞佐子
佐向 恵子
隅谷 恭子
高橋 浩二
谷所 幸子
豊島 直子
中川 雅登
中谷 日出夫
中谷 道代
難波 千里
西川 友理子
西村 悠美
橋本 敏彦
花村 美佳
平下 祐子
廣瀬 知華
藤田 恵子
森川 裕
山本 真弓
吉岡 弓子
和久 景子

VIOLA

秋山 久雄
井戸 義訓
入江 隆
浦中 美智子
太田 真紀子
岡 恵子
川端 成彬
田中 景子
戸井田 隼
坂東 佑二郎
福田 文治
松本 光世
宮崎 友彰

VIOLINCELLO

阿保 幸雄
岩田 倫和
奥野 平人
國芳 真紀子
坂元 正三
澤瀬 研介
豊島 正
富樫 誠
中村 郁
橋本 美代
廣瀬 恵子
藤井 綾

DOUBLE BASS

稲葉 杏子
岡田 志穂
隅谷 正一
高橋 はるか
寺島 洋之
長岡 豊
萩尾 善正
安近 紀子
渡辺 昭一

FLUTE

姜 愛順
芝野 均
丹波 博子
多田 博史
渡辺 和雄

OBOE

岡田 啓
酒井 洋
波留 ひとみ
勝山 貴美子(団友)

CLARINET

栗山 明子
芝野 範子
細野 巖
山中 聡子
打田 正樹(客演)

BASSOON

市川 里美
一ノ瀬 圭子
上川畑 良子
山科 みどり

...コンサートミストレス
コンサートマスター

...パトリージャー

HORN

安彦 高志
織田 克洋
橋 逸平
中谷 星子
廣橋 麻理子
山科 幸生

TRUMPET

残熊 祐治
西川 倫史
廣橋 誠司
森 修二
山田 浩之

TROMBONE

柏岡 亨
金 昌信
松田 斉

TUBA

藤川 健

PERCUSSION

川人 玲子
田村 千春
富岡 計次(客演)
上柿 泰平(団友)
守 葉子(団友)

HARP

鈴木 貴子(客演)

トレーナー 池田 重一
市野 桂子
岩井 英樹
高野 昌帥
谷野 里香

団長 松田 斉
副団長 柏岡 亨

運営委員長 山科 幸生
チーフパトリージャー 阿保 幸雄

総務 坂元 正三
富樫 誠

インスペクター 廣橋 誠司

会計 岡 雅樹
国芳 真紀子
田村 千春

団費 一ノ瀬 圭子
佐向 恵子
人事 入江 隆

広報 岩田 倫和
上川畑 良子
細野 巖

ライブラリアン 井戸 義訓

エキストラ 平下 祐子

楽器 金 昌信

友の会 加藤 裕紀子

渉外 森 修二
山本 真弓

会計監査 長岡 豊

田本 撰理
中谷 葉真
林 口 眞也
松村 洋介

関西シティフィルハーモニー交響楽団 第40回記念定期演奏会

2005年

9月4日[日] 14:30開演

ザ・シンフォニーホール

指揮 伊藤 翔

ウェーバー
「オベロン」序曲

ドビュッシー
小組曲

R.シュトラウス
交響詩「英雄の生涯」

関西シティフィル 《フランス音楽名曲コンサート》

2005年4月16日[土] 18:30開演

池田市民文化会館 アゼリアホール]

指揮 ギオルギ・ババアゼ

フランク：交響曲 二短調

ベルリオーズ：「ローマの謝肉祭」序曲

サン・サーンス：動物の謝肉祭

デュカス：交響詩「魔法使いの弟子」

*詳しくはこのプログラムに挟み込んである案内チラシをご覧ください

関西シティフィルハーモニー交響楽団 《第4回ファミリーコンサート》

2005年11月20日[日] 15:00開演

池田市民文化会館 アゼリアホール]

指揮 スラタン・スルジッチ

チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」 他

*曲目は変更になる場合があります。

第3回関西シティフィルハーモニー交響楽団ファミリーコンサート

《新潟県中越地震災害義援金募金》 御協力御礼

謹啓 昨年10月23日の新潟県中越地震の被災者とそのご家族の方々に対して心からお見舞いを申し上げます。

当団では、去る11月28日に開催致しましたファミリーコンサートを機に、団内で義援金を募ることと致しました。また演奏会当日、ホールのロビーに募金箱を置き、御来聴くださいましたみなさまにも御案内申し上げたところ、非常に多数の方々の御賛同を頂戴致しました。

義援金総額は112,741円でした。演奏会の翌日、「日本赤十字社本社新潟県中越地震災害義援金」として被災地の方々にお送り致しております。

ここに謹んで御報告申し上げますと共に、御来場頂きましたみなさまの温かい御理解と御協力に深く感謝申し上げます。 敬具